

令和5年度の学校経営について

富士市立吉原小学校

1 小中一貫教育目標（学校教育目標）

あこがれ	チャレンジ	笑顔
夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子		

平成30年7月に、吉原小学校・伝法小学校・吉原第一中学校の保護者・地域住民・教職員を対象とし、中学校卒業時の「願う子供の姿」に関するアンケート調査を実施した。多種・多様な御意見をいただいたが、同年10月の3校合同学校運営協議会における協議を経て、校長等連絡会にて、大きくは『目標に向かえる』『自ら行動できる』『思いやりがある』の三つの姿に集約されるものと判断するに至った。

これを踏まえ、学習指導要領に基づき、子供一人一人の「生きる力」を育むことを目指すため、吉原第一中学校区の子供に対して家庭や地域社会とともに3校が育成すべき資質・能力を『あこがれ』『チャレンジ』『笑顔』の言葉で表現することとした。

『あこがれ』とは、夢あるいは目的・目標であり、主体的・協働的な歩みの結果として子供自らが到達を願うゴールである。そこに到達した姿、到達しようと真摯に努力する姿が、他者のあこがれとなることもある。

『チャレンジ』とは、あこがれに向けての挑戦である。見通しや振り返りに基づく試行錯誤を繰り返しつつ、主体性と協調性をもって確実に歩み続ける姿である。個としても、チームとしても、挫折したり屈したりすることのない強さが必要である。

『笑顔』とは、あこがれへのチャレンジの結果や過程から得られた充実感・満足感を実感している姿であり、それまでの営みや成果・課題等を仲間とともに共有し、喜び、認め、励まし合う姿である。

吉原第一中学校区3校は、平成31（2019）年度より、上記目標を、これまでの学校教育目標に替え、3校が共有する「小中一貫教育目標」として設定した。

なお、平成3年建立の石碑に刻まれた従前の学校教育目標「いい顔 いい動き」は校訓として位置付け、小中一貫教育目標の具現に向けた様々な活動場面において、一人一人の子供のよさを見出し、価値付けるための指標として活用していくことにする。

● 小中連携・一貫教育について

平成30年3月、富士市は「つながる学び ひろがる未来」をスローガンとした「小中連携・一貫教育基本方針」を策定し公表した。これは、小学校と中学校との「たての接続」と学校と家庭・地域との「よこの連携」により、「学び合い 学びつづける『ふじの人』づくり」の実現を目指すものである。

未来を切り拓く子供一人一人の「生きる力」を育むためにも、小中学校は、相互の理解を深め、義務教育9年間を一体として捉えることによって、子供の学びの連続性を保障し、一貫した教育の充実を図る。三校で連携を密にして推進していく。

● コミュニティ・スクールについて

吉原第一中学校区の3校は、他に先駆け、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて、学校運営協議会を設置するコミュニティ・スクールとなった。「地域とともにある学校」づくりの推進を進める。現在本校にはCS ボランティアとして、総

合的な学習の時間・各教科の授業、読み聞かせ、花壇づくり、清掃活動、図書館ボランティア等の様々な活動で支援をいただく。今後も、CS ボランティアとして、教育活動に支援をいただくとともに、地域社会が学校に求める活動に対しても、随時協力していくことが重要である。

2 令和5年度の重点目標

わくわくを見つけよう

<数値目標> 学校が楽しい：96%

わくわくして取り組んでいることがある：88%

令和5年度の重点目標策定に際し、児童の実態から整理した課題を踏まえ、教育課程編成会議において、子供たちの主体性を育むことを目指すとした。この願いは、昨年度と一昨年度の重点目標にあった、「初めの一步」や「次の一步」を願う思いに継続するものであり、未来を生きる子供たちにとって最優先に取り組むべき課題だと確認している。

そこでまず、子供たちに主体的な行動が生まれる「動機」は何かについて考えた。そこに必要となることは子供自身の内面に、わくわくする気持ちがあることだと考えた。楽しいわくわく、不思議さにはまるわくわく、時には苦勞して手に入れるわくわく、いろいろな「わくわく」全てが、子供たちの「主体性の動機」となり、子供たちの「頑張りの原動力」になるに違いない。

また、このわくわくする気持ち、主体性の動機は、他から与えられるものではなく、自分から求めて見つけるものである。そのことについて、子供自身が理解し、意識して行動を起こすことの期待を込めて、「見つけよう」という喚起の言葉に続けた。